

ダイヤル化した相談電話での相談や訪問しての相談活動を実施した。また、いじめ電話対策指導資料を作成し、各学校での活用を図った。

- (5) 環境教育推進モデル校を小学校2校、中学校1校を指定し、環境教育の在り方の研究を進めるとともに、福島、群馬、新潟三県の児童生徒による「尾瀬子どもサミット」を実施し、次世代を担う子どもの環境観の育成に努めた。

3 高等学校教育関係

- (1) 学習指導要領改訂に基づく教育課程が実施されたことから、高等学校の教育課程の実施に伴う指導上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、教職員の指導力の向上に資する目的を持つ「教育課程運営改善講習会」を県内4地区で開催した。
- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を修得させるため、先端技術の研修や海外教育事情調査、英語担当教員海外派遣事業等を実施した。
- (3) 「学力向上ステップアッププラン事業」の一環として「基礎学力向上推進事業」の対象校を61校に拡大するとともに、新たに「大学等志願率向上支援事業」を開始するなど、生徒の学力向上と進路希望の実現を図った。
- (4) 県立高等学校の施設整備事業関係では、福島高等学校他35校の校舎・体育館を大規模改造事業（59億7,160万6千円）で整備し、光南高等学校・農蚕高等学校・あさか開成高等学校を校舎増築事業（14億9,115万5千円）で整備。また、勿来工業高等学校を校舎改築事業（14億5,848万3千円）で整備し、会津高等学校は体育館改築事業（4億5,336万7千円）で整備した。学校用地取得事業では郡山女子高等学校（7,776.49m²、6億1千万円）、小名浜高等学校（3,706m²、1億6,824万7千円）を整備した。

4 養護教育関係

- (1) 県内の盲・聾・養護学校で学ぶ児童生徒が、社会参加・自立を目指し、積極的に努力している姿や教育効果を広く県民に公開するとともに、共同活動等を通じ、障害のない児童生徒や地域の人々と親しみをもってふれあい、社会の一員としていきいきと地域の中で生活できるよう「いきいきふれあいフェスティバル事業」を実施した。
- (2) 軽度の心身障害児を担当している小・中学校の通常の学級の教員を対象として、心身障害児に関する基礎的知識、支援の方法等についての資質を高める事業として「軽度心身障害児指導法セミナー」を実施した。
- (3) 心身に障害のある児童生徒の卒業後の社会参加・自立に向けて、一人一人の実態や地域の条件等に応じた進路指導についての協議や進路実現のために企業、福祉、労働機関等の理解啓発を促進し、進路開拓の支援方策を推進するため「養護教育進路指導推進事業」を実施した。
- (4) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の指導力の向上に努めた。
- (5) 特殊学校の施設整備事業として、盲学校寄宿舎、聾学校・あぶくま養護学校安積分校の大規模改造事業（8億3,123万1千円）、あぶくま養護学校の環境整備事業（7,357万

1千円）を行った。

5 文化関係

- (1) 県立美術館及び県立博物館では、学校週5日制対応事業の一環として、小・中学生を対象に毎月第2・第4土曜日の常設展示観覧料を全額免除した。
- (2) 天然記念物の将来的な保護と活用について検討するため、「赤井谷地沼野植物群落」及び「尾瀬」についての調査研究事業に取り組み調査報告書を刊行した。
- (3) 県民の教育、芸術及び文化の振興を図るため、美術作品及び博物館資料の整理・収集と調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実に努めるとともに、教育普及のための各種事業を行い、本県美術振興の中心施設として県立美術館及び県内博物館の中心施設としての県立博物館の整備充実に努めた。
- (4) 文化財の調査・保存・活用等の拠点施設としての「文化財センター」（仮称）の基本計画を策定した。

6 保健体育関係

- (1) 広く県民に親しまれた「スポーツ・レクリエーション祭」を「ふくしまスポーツフェスタ96」に改名し、新たな生涯スポーツの振興策の1つとして開催した。
- (2) 本県の地域スポーツの振興と体育指導委員の資質の向上を図ることを目的として「平成8年度体育指導委員研究大会」を須賀川市で開催した。
- (3) 「平成8年度東部地区学校体育実技指導者講習会」を本県開催し、最新の指導法の研究と指導者の養成に努めた。
- (4) 近年における社会環境の変容は、児童生徒を取り巻く生活環境や生活様式を大きく変化させ、新たな健康問題をもたらしている。こうした問題に適切に対応し、児童生徒が生涯を通じて積極的に健康を保持増進するためには、学校における健康教育の充実に努めることが急務であるので、体力・運動能力の向上をはじめ、保健・安全教育、学校給食等の一層の推進に努めた。

7 福利厚生関係

教職員一人一人が現職中から退職後までを視野に入れた長期的な生涯生活設計を自ら確立し実現していくことの重要性について理解を深めるために、「教職員生涯生活設計推進計画」のもとに、その普及啓発に努めた。

特に、自ら作成する生涯生活設計づくりを支援するために「マイライフプランセミナー」を県・共済組合・互助会が共同で開催し、教職員の生涯生活設計確立の推進を図った。

なお、次代を担う児童生徒が様々な分野で活躍した。

文化面では、福島女子高等学校が囲碁で全国二連覇、全国放送コンテストでは創作ラジオドラマ部門で優勝。全国高校家庭クラブ研究発表会で原町高等学校が二年連続最優秀賞。全国合唱コンクールでは、高校で安積女子、若松女子、福島高等学校が金賞。中学で若松第三中学校が金賞、常葉中学校が銀賞、東中学校（猪苗代）が銅賞を獲得した。スポーツ面では、全国高校駅伝で田村高等学校が女子は県高校新記録で三位、男子も四位の入賞。高校バスケット選抜優勝大会で福島工業高等学校が準優勝に輝いた。